

## 庄司 悦大 選手・山内 彰 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号  
10

庄司 悦大 選手  
MF 32歳

静岡県沼津市出身で中学生時代は清水エスリスアカデミーで育ち、その後は清水商業高校、専修大学サッカー部で頭角を現して、2012年にプロ入りしました。FC町田ゼルビア、レノファ山口FCを経て2017年にFC岐阜へ加入すると、その活躍が目にとまり翌年にはJ1のベガルタ仙台へ移籍しました。その後、京都サンガF.C.へ移籍し、在籍4年目にはJ1昇格へ導いたベテランの守備的ミッドフィルダーです。

昨年J1昇格を果たした京都サンガF.C.の強化部長を務めた山道<sup>やまじ</sup>チーム統括本部長は、長年の浦和レッズの強化部長時代に小松弊社社長を指導した縁もあり、FC岐阜をJ2に昇格させ、次にJ1を目指すべく、今シーズン着任しました。縁は異なるものの、その山道本部長が京都サンガF.C.から連れて来たのが、かつてFC岐阜でプレーした経験があるこの庄司選手であります。

庄司選手の目指すサッカーはパスワークによる連携プレーで、観客の皆様をワクワクさせて、相手を圧倒して勝利を得ることであり、まずはFC岐阜をJ2に昇格させるために来ましたと、きっぱりと答える姿勢は頼もしい限りです。

信条は「継続は力なり」であり、継続してきた努力の裏付けと「一喜一憂せず自分に矢印を向けてやり続けることが成長への近道だ」と思っていますし、常に有頂天にならずに努力をし続けてやるべきことをやるのが大事です」と言い切るところに彼の気概がみなぎっていて素晴らしいです。

ホームタウン応援大使を任ぜられている可児市との交流は、コロナ禍でまだ行われていませんが、可児市のローズガーデンには既に家族で行って楽しんでいますが、担当の中濃地域も素晴らしい所が多く行ってみたいと思っています。

5年前のFC岐阜在籍時代は奥さんと長女とで過ごし、今回の移籍時には7歳に成長した長女、FC岐阜から移籍後に誕生した長男は4歳に育って、コロナ禍であるが快適で岐阜市の長良公園や岐阜ファミリーパークと一緒に楽しんで過ごすことができている。自宅でのリラックスタイムでは、様々な種類のコーヒーを奥様と共に楽しめているうえに、素晴らしい選手たちとの交流もあり、岐阜での生活を満喫しています。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号  
32

山内 彰 選手  
MF 22歳

大阪市城東区生まれの二人兄弟で育ち、中学生時代はサッカー部他にクラブチーム「イーリス生野」にも所属していました。高校は千葉県我孫子市にある中央学院高校へ、大学は愛知県みよし市にある東海学園大学で、いずれも部活動に力を入れた学校で伸び伸びとサッカーに集中できる環境で過ごし、素晴らしい仲間が大勢出来ました。中学・高校・大学のどのサッカー部でもキャプテンを経験してチームを統率し引っ張って来ただけあって、人見知りせず誰とでも屈託無く仲良くなれる素晴らしい人柄です。また、お爺さんは当時プロ野球界にも注目された存在で、お父さんも同じく野球で名を挙げたスポーツ一家で育てられたうえに、自分でもフィジカル強化に取り組んだ結果、攻撃、守備、両方において運動量では誰にも負けない自信があるという頼もしい新人です。

引く手あまたの期待の選手がFC岐阜への加入を決めたのは、もちろん様々な人脈からの推薦もあったが、FC岐阜には素晴らしい先輩選手達がたくさんいるのでプレーでも私生活でも全ての面でたくさんのお話を学び取ることができると考えたからです。また、年の離れた先輩との会話などからは私生活の過ごし方やインタビューでの話し方など様々な学ぶことがたくさんあって楽しい毎日を過ごせています。

目標は、チームのJ2昇格という最大の目標に貢献するためにまずはスタメンに入って活躍することであり、次に日本代表に選ばれることだと、明快な返事がためらいなく返ってきました。プロデビュー戦はリーグ開幕戦のアウェイY.S.C.C横浜戦で途中出場を果たし、ホーム開幕戦となった愛媛FC戦でも後半途中から出場しました。まだ緊張感もあって反省すべき点も多かったが、今後は伸び伸びとやってチームの勝利に貢献できるように頑張りますと、決意に溢れており今後の活躍が楽しみです。

ホームタウン応援大使は多治見市と土岐市を担当し、今後は担当圏域の東濃地域の中津川市、瑞浪市、恵那市などの中山道地域にも足を運びますので、皆様の応援をよろしくお願いいたします。